

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

18645

こども科学館管理事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	社会教育費		
	目	こども科学館費		
	大事業	こども科学館事業		
	中事業	こども科学館管理事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	昭和56年度	～	無し	担当課・担当課長・Tel	学校教育課	西谷 宜昭 435-1196
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	こども科学館の維持管理		こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する事業。			
事業内容		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
		こども科学館の建物管理、入館者管理、その他科学館の管理運営に必要な事務等。	こども科学館の建物管理、入館者管理、その他科学館の管理運営に必要な事務等。	こども科学館の建物管理、入館者管理、その他科学館の管理運営に必要な事務等。	こども科学館の建物管理、入館者管理、その他科学館の管理運営に必要な事務等。	こども科学館の建物管理、入館者管理、その他科学館の管理運営に必要な事務等。

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	14,312	12,877	13,695	15,045	16,692	0	16,692	0
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	△4.3%	16.8%	21.9%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	5,415	5,415	5,353	5,275	4,338	4,338	4,338	0	4,338
	正規職員以外	5,913	5,913	5,021	5,231	4,929	5,025	5,858	0	5,858
	小計	11,328	11,328	10,374	10,506	9,267	9,363	10,196	0	10,196
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	8,975	7,945	8,998	0	9,169	0	9,169	0
一般財源(税等)	0	0	5,337	4,932	4,697	15,045	7,523	0	7,523	0
所要人数(人)	正規職員	0.68	0.68	0.69	0.68	0.58	0.58	0.58	0.00	0.58
	正規職員以外	2.01	2.01	1.67	1.78	1.72	1.77	1.72	0.00	1.72
主な予算内訳	光熱水費4,500千円、管理委託料7,806千円(令和4年度 当初)									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
開館率	(開館日数/開館可能日数)	%	100	100	100	100	100
			100	100	100	100	
			%	100%	100%	%	%
こども科学館入館者数		人	53000	53000	53000	53000	53000
			34658	41449			
			%	65.4%	78.2%	%	%

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>科学をとおして子供の健全育成を目標とすることも科学館は、科学や理科、モノづくりに関し、特に興味や関心を高めるための教育の拠点として市民等からのニーズがあり、和歌山市に必要な施設である。新型コロナウイルス感染症の影響で、入館者数が減少したが、現在は増加傾向にある。</p>
見直し・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> ・建物や設備の老朽化が進み、改修等をしなければならないところがある。特に外壁の痛み、冷暖房設備の不調等が目立ち、今後も改修等のための予算を粘り強く要求していきたい。また、照明のLED化を推進し、省エネにも取り組んでいかなければならない。 ・プラネタリウム室内にヒアリングシステムが完成できるよう、当該アンプ装置の設置の予算要求を粘り強く行っていきたい。(アンテナ部分は、プラネタリウム改修時設置済み) ・1階奥、階段部分、3階の展示物が依然古く、改修に向け今後も粘り強く予算要求をしていきたい。